

題名 (しぜんのおしぎ)

かん板に、すを作ったツバメ

二千年ねむりつづけたハスのたね

(どうしてこのように大切にするのでしょう。)

(生き物に対して、どうせっしていききたいですか。)

※ ()内の言葉は、はじめは空欄にして、授業の展開に合わせて記入させてください。

資料① 看板消灯ツバメのため（新聞記事を基に執筆者が作成）

看板かんばんの照明しょうめいが2年前に切れ、修理しゅうりせずいたら、昨年さくねん5月にツバメが巣すを作りました。修理の話が持ち上がりしましたが、工事業者から、直すには巣をこわさないといけないと言われたため、ことわりました。

今年も5羽のヒナが育ち、無事ぶじにみんな巣立ふじっていったそうです。お店のオーナーの方は、来年も帰ってきてほしいので、看板はそのままにしておくそうです。



大分合同新聞 2019年6月7日掲載記事より

資料② （種の発芽について執筆者が作成）

植物のたねは、放っておいても、めは出ません。空気・水・温度の三つがそろわないといけません。そのために、たねはじつとねむりについて待っています。とちゅうで何かが変化へんかすると、たねは目をさまして、めを出すのです。しかし、野さいのたねでは、ねむりつづけてもせいぜい6年くらいで死んでしまいます。だから、ハスのたねが二千年ねむりつづけたというのは、本当にすごいことです。